



図1 掘り取り時期と軟化温度が葉柄重に及ぼす影響
(注) 葉柄重は10株当り累積重

b) ジベレリン処理によるほう芽促進
ジベレリン GA_3 は、ウドなどの休眠打破とほう芽促進に利用されているので、ルバーブへの適応性を検討した。

1985年4月に露地に直播きし、実験に使用するまで根株を養成した。実験は2回行ない、第1回は86年1月、第2回は86年12月に根株を掘り取り、電熱線により地温を10~20°Cとして軟化箱内で栽培した。収穫は、ほぼ5日ごとに、葉柄長が30 cm以上となった葉を収穫した。

ジベレリンの処理濃度は250, 125, および62 ppmとし、対象は水道水とした4区で比較した。処理液の施用量は、根株重1 kg当り50 ml程度をスプレーにより根株全体に散布した。

その結果、休眠の比較的深い12月処理では62~250 ppmの範囲内で施用効果が著しかった。

また、1月処理についても同程度の濃度で効果が認められた(表1)。

以上のことから、根株に十分濡れる量を噴霧すれば、実用的には100 ppmで良いと判断され、ジベレリン施用法は、根株全体への噴霧またはドブ漬(全体浸漬)とするのが効果的である。

なお、根株重と収量の間には、高い相関関係がある。したがって、軟化栽培では重い根株を使用することが有利となるが、実用栽培では2~3年生の根株が適しており⁷⁾、短期間で充実した根株養成のための肥培管理も重要である。

(2) 軟化物の収穫

根株を伏せ込み後、通常約1か月目より収穫が始まり、約1カ月間収穫期がある。収穫法は露地栽培と同じで、葉柄が30 cm程度に伸長したら順次、手でかき取る。収穫初期は太く鮮紅色の葉柄